

研究報告の報告状況

(期間：平成15年10月27日～平成16年3月31日)

| | 一般的名称 | 報告の概要 |
|----|-----------------------|--|
| 1 | シクロホスファミド | エンドキサンによると考えられる急性骨髄性白血病の発現が疑われること。 |
| 2 | 芍薬甘草湯 | 芍薬甘草湯の服用により著明な低カリウム血症、ミオパチーを発症した1例報告。 |
| 3 | 葛根湯 | 葛根湯による多形紅斑型薬疹の1例報告。 |
| 4 | テガフル | 進行・再発乳癌に対してパクリタキセル+ユーエフティ併用療法を施行したところ、G3の肝機能障害1例、G4の好中球減少1例が認められた。 |
| 5 | ノルエチステロン・エチニルエストラジオール | 経口避妊薬の使用と組織型別乳癌のリスクを比較検討。 |
| 6 | 乾燥スルホ化人免疫グロブリン | 静注用人免疫グロブリン投与を受けたITP患者に急性腎不全、心筋炎が発現した。 |
| 7 | テガフル | 進行再発大腸癌患者にCTP-11+UFT/LV併用療法を施行したところG4の好中球減少が1例報告された。 |
| 8 | 硫酸モルヒネ | モルヒネ、三環系抗うつ薬服用による血栓性血小板減少性紫斑症の発現について。 |
| 9 | メトロニダゾール | メトロニダゾールの総投与量67gを投与された患者に失調症が発症した。 |
| 10 | 塩酸ゲムシタピン | 高齢者進行非小細胞肺癌患者にGEM・TXT併用療法を施行し、比較的高頻度(9例中5例)でG3以上の間質性肺炎(2例)及び肺炎(3例)が発現した。 |
| 11 | 乾燥BCG | BCG投与時の肉芽腫性肝炎の報告。 |
| 12 | 乾燥BCG | カテーテルの膀胱挿入時のトラブルで播種性BCG感染が発現。 |
| 13 | エストリオール | 血管運動性症状のない閉経後女性の骨粗鬆症の予防及び治療のために、エストロゲン+プロゲステン併用療法を行うことは推奨できない。 |
| 14 | エストリオール | 閉経後の女性に対するエストロゲン+プロゲステン併用療法により卵巣癌発現のリスクが上昇する。 |
| 15 | 塩酸モルヒネ | 友人より鎮痛剤としてモルヒネ、三環系抗うつ剤を入手し内服。TTPと診断された。 |
| 16 | テガフル | 結腸癌、直腸癌患者に術後ユーエフティを1年間投与したGroupBで、G4の白血球減少が1例発現した。 |
| 17 | エボエチン (遺伝子組換え) | 頭頸部癌放射線療法患者の貧血改善に対して、エボエチン ベータ使用群の方が、非使用群に比べ生命予後が悪かった。 |
| 18 | ニフェジピン | 徐放製剤等を粉砕しNGチューブより投与した症例。 |
| 19 | ハロペリドール | ハロペリドールを中心とした処方により悪性症候群様の症状が出現した。 |
| 20 | ハロペリドール | ハロペリドールによって悪性症候群が発生した |
| 21 | スピロラクトン | 高齢・女性の高血圧症患者に対する短時間作用型Ca拮抗薬、チアジド系およびK保持型利尿剤の使用が乳がんの発生率を高める可能性がある。 |
| 22 | エストラジオール | ケトコナゾール併用により、エストラジオール代謝への相互作用が認められた。 |
| 23 | シクロスポリン | シクロスポリン注射液とポリカーボネート製三方活栓を併用した場合コネクター部に亀裂が生じる。 |
| 24 | ソマトロピン(遺伝子組換え) | ヒドロコルチゾン投与を受けている成人下垂体機能低下症患者に成長ホルモン(GH)療法を実施すると、投与されたヒドロコルチゾンのアベイラビリティが低下することが示唆された。 |
| 25 | ソマトロピン(遺伝子組換え) | 成人下垂体機能低下性成長ホルモン(GH)欠損症におけるGH投与はヒドロコルチゾン補充療法中の循環血中コルチゾール濃度を低下させる。 |
| 26 | デキサメタゾン | デキサメタゾンを含む化学療法により好中球減少、感染、血小板減少、ニューロパシー等の副作用が認められた。 |

| | | |
|----|---------------------------------|--|
| 27 | ボラプレジック | 攻撃因子抑制剤との併用効果が検証されなかった。 |
| 28 | ボラプレジック | 攻撃因子抑制剤との併用による治療効果に有意な差が認められなかった。 |
| 29 | エストラジオール | 健常閉経後女性へエストラジオールとケトコナゾール併用したところエストロンの薬物動態に影響を認めた。 |
| 30 | 塩酸モルヒネ | モルヒネを服用した患者が、血栓性血小板減少性紫斑病に罹患したこと。 |
| 31 | マレイン酸エナラプリル | マレイン酸エナラプリル投与前のレニン値が高いほど咳嗽発現の確率が高い。 |
| 32 | アクチノマイシン D | 進行性精巣癌患者におけるMAP(メトトレキサート、アクチノマイシンD、シスプラチン)療法の不十分な効果。 |
| 33 | コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム | SLEによりステロイド投与中の患者に、両大腿骨頭壊死と左Kienbock病を発症した。 |
| 34 | レボホリナートカルシウム | 大腸癌肝転移(H3)に対する全身化学療法を治療した5例中1例、発熱が改善せず投与中止を余儀なくされ、9ヵ月で死亡した。 |
| 35 | ハロペリドール | 妄想性障害患者においてChlorpromazineやHaloperidolなどを服用したところ薬物性パーキンソン症候群を発症した1症例報告。 |
| 36 | エストラジオール | CYP1B1遺伝子多型は、全体として乳癌のリスクに影響を及ぼさないが、長期にわたるホルモン補充療法の施行後のリスクを修飾することが強く示唆された。 |
| 37 | エストラジオール | エストロゲン-プロゲステロン連続併用で乳癌リスク上昇が示唆された。 |
| 38 | 硫酸モルヒネ | 友人より鎮静剤を内服し、TTPとなる。 |
| 39 | ハロペリドール | 妄想性障害患者においてChlorpromazineやHaloperidolなどを服用したところ薬物性パーキンソン症候群を発症した1症例報告。 |
| 40 | ケトコナゾール | ヒトにおいてキニーネの代謝は本剤により阻害される。 |
| 41 | 塩酸チクロピジン | チクロピジン内服により誘発されたTTPの例。 |
| 42 | 塩酸チクロピジン | チクロピジンによりアレルギー主体の急性尿細管障害が発症した例。 |
| 43 | ブライプロフェン | ブライプロフェン点眼液の長期投与により角膜穿孔を発症したと考えられる例。 |
| 44 | スルピリド | スルピリド、塩酸クロカブラミン、塩酸クロルプロマジン、ゾテピンの併用中に腸管囊腫様気腫症を来した例。 |
| 45 | ワルファリンカリウム | ワルファリンの服用により、急性頸髄硬膜外血腫を来した例。 |
| 46 | 塩酸チクロピジン | チクロピジンの服用により、急性頸髄硬膜外血腫を来した例。 |
| 47 | レボホリナートカルシウム | 転移性大腸癌患者の年令別、2週間に1回のイリリネカン、ロイコポリン、フルオロウラシルのボース投与の安全性と有効性を評価する試験において、治療関連死または治療による悪化による死亡(Rothembergらの定義、2001年)が、118名の患者のうち3名(2.5%)に認められた。 |
| 48 | ブスルファン | 様々な慢性骨髄増殖症候群(真性赤血球増加(PV)、本態性血小板増加症(ET)、特発性骨髄線維症(IMF))で、ヒドロキシウレア(HU)単独またはブスルファン(BU)による治療に続いて投与されたHUによる治療中に急性骨髄白血病(AML)、骨髄異形成症候群(MDS)が発現した。 |
| 49 | 塩酸クロルプロマジン | 塩酸クロルプロマジン、塩酸クロカブラミン等の抗精神病薬内服中の患者に腸管麻痺、腸管囊腫様気腫症が発現した。 |
| 50 | 塩酸ニムスチン | 悪性神経膠腫に対するACNUを含んだ化学療法で、器質性脳症候群、血栓症、アレルギーなどの未知の有害事象が報告された。 |
| 51 | セボフルラン | セボフルランはイソフルラン、エンフルラン、Desflurane(日本未承認)と同様、乾燥したCO ₂ 吸収剤に接触するとCOを発生させることが知られていることから臨床時の状態に近い条件下でCO量を定量し、患者が暴露される程度を予想する。 |
| 52 | アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム | 報告の医療機関の入院患者を対象に、出血性潰瘍における非ステロイド性抗炎症薬(NSAID _s)の関与を調査した結果、全出血性潰瘍症例中NSAID _s 使用例は38例27%で、NSAID _s の種類としては低用量アスピリンが多かった(30%)。 |
| 53 | アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム | 低用量アスピリン(81mg or 100mg)起因性潰瘍の実態について検討した結果、消化性潰瘍の約10%、NSAIDs潰瘍の約半数を占め、高齢者に多く、出血症状で発症するという特徴があるが、非アスピリンNSAIDs潰瘍と形態、HP陽性率、治癒率に差は認めなかった。 |
| 54 | アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム | 約3年の大腸内視鏡検査のデータから、NSAIDs服用者の約3%に大腸潰瘍を主とした大腸病変が発症することが判明した。これは、NSAIDs起因性胃・十二指腸潰瘍に比べて低頻度であるが、注意すべき病態であると考えられた。 |

| | | |
|----|---------------------------------|---|
| 55 | アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム | 1991年以降の非ステロイド系消炎鎮痛薬(NSAIDs)による消化管障害の実態調査をおこない、リウマチ患者の潰瘍発症が減少傾向を示すが、上部消化管緊急内視鏡に占めるNSAIDsの割合は多い。ことにアスピリン使用例では出血に注意する必要がある。 |
| 56 | アセチルサリチル酸、合成ヒドロタルサイト | アスピリン服用により血腫が拡大したとの報告がなされた。 |
| 57 | アセトアミノフェン | アセトアミノフェンにより劇症肝不全が起こったとの報告がなされた。 |
| 58 | アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム | 虚血性脳卒中患者においてチクロピジン単独とチクロピジン+アスピリン併用との抗血小板療法服用での有効性及び安全性について。 |
| 59 | アセチルサリチル酸、アルミニウムグリシネート、炭酸マグネシウム | 椎弓切除後の癒痕とアスピリン(抗凝固治療)の組合せが硬膜外血腫の原因との報告がなされた。 |
| 60 | インスリン アスパルト(遺伝子組換え) | 速効型インスリン製剤を使用したところ投与2時間後に立ちくらみが起こり、嘔吐も生じたため救急車で搬送され点滴処置後回復した。 |
| 61 | 塩酸ピオグリタゾン | 米国におけるTZD系糖尿病治療薬による心不全リスクの増加について。 |
| 62 | ランソプラゾール | クラリスロマイシン、経口ステロイド剤、ワーファリンの3剤ではPPIとの併用により副作用の発現頻度が高くなる可能性がある。 |
| 63 | ゲフィチニブ | ゲフィチニブはin vitroにおいて光毒性物質であることが確認された。 |
| 64 | エストラジオール | Kliogest(エストラジオール-酢酸ノルエチステロン貼付剤)において、骨粗鬆症予防効果は認められたが、更年期症状については有意な改善が認められなかった。 |
| 65 | アセトアミノフェン | 糖尿病の女児の副鼻腔炎の治療にアセトアミノフェンを投与したところ、薬剤性急性間質性腎炎を発症した例。 |
| 66 | コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム | メチルプレドニゾンパルス療法とシクロスポリンA併用療法を受けたRA患者1例が、治療開始から3ヵ月後に肺炎で死亡した。 |
| 67 | エストラジオール | ホルモン補充療法の投与方法と乳癌リスクについて検討した。 |
| 68 | エストラジオール | 検討したCYP1B1遺伝子多型は全体として乳癌のリスクに影響を及ぼさないが長期にわたるホルモン補充療法の施行後のリスクを修飾することが示唆された。 |
| 69 | アモキシシリン | 1991年7月から2001年6月までの11年間で主治医により薬剤性出血性大腸炎が疑われた患者12例を対象とし、白血球遊走試験(leukocyte migration test、以下LMT)により薬剤性出血性大腸炎が疑われた患者の原因薬剤の検出同定を行い、薬剤性出血性大腸炎におけるLMTの有用性、起病薬剤および潜伏期間ならびに発症におけるアレルギー性機序の関与について検討した。 |
| 70 | マレイン酸メチルエルゴメトリン | エルゴノビンの投与により誘発された出産後の急性心筋梗塞の1症例報告。 |
| 71 | エストリオール | エストロゲンとプロゲステロン併用と冠動脈疾患のリスクについて。 |
| 72 | エストリオール | 閉経後の女性におけるエストロゲンとプロゲステロン併用の脳卒中に対する影響について。 |
| 73 | エストリオール | 閉経後の女性における全体認識機能に対するエストロゲンとプロゲステロン併用の影響について。 |
| 74 | テガフル・ウラシル | CDDP・UFT療法と同時併用胸部放射線療法による術前治療を施行したところ、grade4の白血球及び血小板減少が1例認められた。 |
| 75 | 塩化スキサメトニウム | 左外鼠径ヘルニアの手術後にハロセンもしくは塩化スキサメトニウムによる考えられる悪性高熱症が発現した。 |
| 76 | シメチジン | 長期酸分泌抑制療法に関連したビタミンB12欠乏について。 |
| 77 | エストラジオール | タイ人を対象としたエストラジオール-酢酸ノルエチステロン経口剤の臨床試験で「ラセボ」との比較において閉経期症状緩和の有意な改善が認められなかった。 |
| 78 | セボフルラン | 臨床揮発性吸入麻酔薬(セボフルラン、エンフルラン、イソフルラン、ハロタン、Desflurane(日本未承認))と乾燥したCO2吸収剤(ソーダライム)との反応によるCO産生、発熱の程度について。 |
| 79 | セボフルラン | セボフルランは乾燥したソーダライムとの発熱反応により反応が増強されるため、最初の15-20分間はどんな分解物も検出できなかった。最終的には、セボフルランの分解物としてCompound A、B、C、Dおよびメタノールが検出された。 |
| 80 | セボフルラン | 乾燥させたソーダライムの入った麻酔器に吸入麻酔薬(セボフルラン、Desflurane、エンフルラン、イソフルラン、ハロタン)を通しカニスタ内の温度を測定した。 |
| 81 | セボフルラン | CO2吸収剤の脱水がセボフルランの分解物であるCompound Aの生成に与える影響についての研究。 |

| | | |
|-----|---|---|
| 82 | プロピレングリコール | ロラゼパム持続注入中に血清クレアチニン濃度の上昇をきたした患者のデータを用いて、血清クレアチニン濃度の上昇度と以下の各変数、すなわち血清プロピレングリコール値、ロラゼパム累積投与量、ロラゼパム投与期間との相関関係について。 |
| 83 | シスプラチン | VEGF(血管内皮細胞増殖因子)INHIBITORを化学療法と併用した場合、VTEが発現することを示唆する2報の臨床試験報告について。 |
| 84 | メトトレキサート | HIV感染およびHIV非感染Burkittリンパ腫患者にメトトレキサートを含むCODOX - M / IVACの強化化学療法を施行し、療法に関連する死亡例が各群にそれぞれ1例ずつに認められた。 |
| 85 | 硫酸アバカビル | 本研究にて認められたアバカビル過敏症の発現率(8.5%)が現行の添付文書に記載している発現率(4%)より高値を示した。 |
| 86 | カンデサルタン | 過度な血圧低下を呈した患者でのカンデサルタンの薬物動態及びCYP2C9遺伝子変異との関連性について。 |
| 87 | トラネキサム酸 | 止血目的でトラネキサム酸を含む輸液が点滴静注されたあと内視鏡的胃粘膜切除術が施行されたが、翌日腹痛が現れショックとなった。昇圧剤に反応はなく無尿となった。腎機能の低下を伴っていたためDICを合併したHUS、TTPと診断された。 |
| 88 | ノルエピネフリン | 非閉塞性腸管虚血症の疑いのある患者に投与したところ末梢血管収縮、動脈血酸素飽和濃度低下が出現した。 |
| 89 | インドシアニングリーン | インドシアニングリーン注(ICG)を適応症外の眼科手術に使用した結果視野狭窄が発現。 |
| 90 | テオフィリン | テオフィリン中毒と思われる嘔吐により入院した1症例の報告。 |
| 91 | 塩酸マプロチリン | モノアミントランスポーター (MAT) 阻害薬の慢性投与の局所麻酔薬痙攣に及ぼす影響について検討した。 |
| 92 | 酢酸クロルマジノン | CMA(酢酸クロルマジノン)使用後の脳血栓発症。経過:2~3年前他院にてCMAを使用、脳血栓を発症し入院。 |
| 93 | ハロペリドール | 1998年1月~2002年12月の5年間に行政解剖が行われ、死因が急性肺動脈血栓塞栓症と特定された28症例のうち、死亡直前まで抗精神病薬を服用していた8症例について患者背景、リスク因子を検討した。 |
| 94 | アセトアミノフェン | 感冒にて投薬を受け、3日後に口周囲と外陰部に紅斑が出現し、水疱形成と糜爛化を認め、入院となった。 |
| 95 | インドシアニングリーン | インドシアニングリーン注(ICG)を適応症外の硝子体手術に使用した際の視野狭窄について。 |
| 96 | ノルエチステロン・エチニルエストラジオール | 経口避妊薬の使用は、p53遺伝子の変化を伴った乳癌リスク増の原因となっている可能性がある。 |
| 97 | メルカプトプリン | The randomized trial COALL-92において、メルカプトプリンを維持療法とした群で、脳梗塞、二次性悪性疾患(ホジキン病、骨肉腫)を発現した症例が報告された。 |
| 98 | 塩酸クロルプロマジン | chlorpromazine等のphenothiazine系抗精神病薬使用歴を有する女性患者において、急性肺動脈血栓塞栓症発症のリスクが高いことが示唆された。 |
| 99 | エボエチン (遺伝子組換え) | 輸血に反応しない重症貧血のためエリスロポエチンを投与したところ多数の赤茶色の丘疹が体幹、太腿、下肢に出現した。 |
| 100 | デキサメタゾン | デキサメタゾン、シタラビンアラビノシド、6-チオグアニン、エトポシド、ダウノルビシンによる標準寛解導入療法を行い、その後高用量シタラビンによる強化療法を実施した急性骨髄性白血病のダウノ症候群の小児と同治療を行ったダウノ症候群ではない小児において有効性と安全性を比較した。 |
| 101 | リバビリン | リバビリン投与時の生殖障害及び胎児への影響。 |
| 102 | 塩酸ピオグリタゾン | 米国の糖尿病患者におけるTZD系薬剤による黄斑浮腫について。 |
| 103 | プレドニゾン | 成人発症Still病に対するプレドニゾンを含むステロイド大量投与中に多発性脳梗塞、肺塞栓症、くも膜下出血を発症し、ムコル症およびサイトメガロウイルス感染症を併発して死に至った。 |
| 104 | 乾燥スルホ化人免疫グロブリン | 低ガンマグロブリン血症を伴う毛細血管拡張性失調症(AT)患者の重症感染症に グロブリン投与を試みたが、アナフィラキシー症状を起し中止した。抗生剤のみの治療では改善せず死亡した。 |
| 105 | 乾燥細胞培養痘そうワクチン | 天然痘ワクチン接種直後の好酸球媒介心筋細胞壊死を、生体内組織学的根拠を基に、生検で好酸球リンパ球性心筋炎と認められた1症例を報告する。 |
| 106 | リン酸ジヒドロコデイン、グアイフェネシン、マレイン酸クロルフェニラミン、無水カフェイン | 市販薬を連日服用していた。救急隊到着時、心肺停止状態であったが、ICU入室時の頭部CT画像では異常所見認められず、血中濃度を測定した結果113.4 µgと高濃度のカフェインが検出されカフェイン中毒による心肺停止と判断した。 |
| 107 | ジクロフェナクナトリウム | ジクロフェナクナトリウム投与により薬剤性肺炎を来した例。 |

| | | |
|-----|-----------------|---|
| 108 | インドメタシン | 超低出生体重児への早期インドメタシン投与が、BPD発生リスクを上昇させる。 |
| 109 | マレイン酸エナラプリル | マレイン酸エナラプリルの長期投与によりクインケ浮腫を来した例。 |
| 110 | アロプリノール | アロプリノールにより無顆粒球症を発症した例。 |
| 111 | プレドニゾン | 肺線維症のためプレドニゾンを長期間服用した63歳男性が緑膿菌性肺炎、敗血症ショック及び多剤耐性肺炎球菌の左人工膝関節感染に罹患した。 |
| 112 | 塩酸モルヒネ | モルヒネ、三環系抗うつ薬内服後にTTP(血栓性血小板減少性紫斑病)を発症した。 |
| 113 | ウロキナーゼ | 消化器術直後の深部静脈血栓症に対してウロキナーゼを投与したところ腹腔内出血を併発した。 |
| 114 | エポエチン (遺伝子組換え) | 放射線化学療法とrHuEPO治療を受けている子宮頸癌患者では静脈血栓のリスクが上昇した。 |
| 115 | ブスルファン | anti-CD20(n=27)を使った高用量放射免疫治療(HD-RIT)または従来の高用量療法(C-HDT)(n=98)について、自家造血幹細胞移植で治療される濾胞性リンパ腫(FL)の連続した患者125名の多変数比較を行った結果、二次的骨髄異形成症候群または急性骨髄白血病(MDS/AML)の発現率は、HD-RIT群では8年で0.076、C-HDT群では7年で0.086と見積もられた。そして、この従来の高用量療法(C-HDT)を受けた患者98名の内23名にブスルファンが投与されていた。 |
| 116 | ブスルファン | 同種異系造血幹細胞移植後の特発性肺炎症候群(IPS)の発現に関して、従来の調整療法(conventional conditioning regimens)を受けた患者と骨髄機能を廃絶しない(nonmyeloablative)調整療法を受けた患者を比較した研究論文において、従来の調整療法(conventional conditioning regimens)を受けた患者の方がIPS発現率は高く、移植後の早い段階で起こり、急速に悪化し、高い死亡率であった。そして、この従来の調整療法(conventional conditioning regimens)を受けた患者917名の内292名にブスルファンが投与されていた。 |
| 117 | ソマトロピン(遺伝子組換え) | ヒドロコルチゾンよりも酢酸コルチゾン投与されている成人下垂体機能低下症患者で、局所および循環血中のコルチゾール濃度が成長ホルモン(GH)投与の影響を受けやすい。 |
| 118 | 塩酸バンコマイシン | 現在まで、バンコマイシン低感受性黄色ブドウ球菌(VISA)による感染症例は米国で6例報告されている。 |
| 119 | リン酸デキサメタゾンナトリウム | 悪性リンパ腫患者において在宅酸素療法を行っていたが、呼吸不全が悪化し、死亡した。剖検ではリンパ腫浸潤は認めず、間質性肺炎および肺の線維化を認めた。 |
| 120 | 塩酸キニーネ | スコットランド毒物情報局に報告されたキニーネ中毒。 |
| 121 | リン酸デキサメタゾンナトリウム | 早産児のコルチコステロイド投与における神経感覚への影響。 |
| 122 | ヒトインスリン(遺伝子組換え) | インスリン療法開始後、高度の自律神経障害を主徴とした糖尿病性ニューロパチーが発現した。 |
| 123 | ジクロフェナクナトリウム | 出産後に投与されたNSAIDsと関連が否定できない高血圧症が6症例報告された。1症例は死亡。子癇前症患者で高血圧発現の可能性が示唆された。 |
| 124 | メクロプラミド | 健康人にメクロプラミドを静注して連続心電図にて不整脈誘発の指標となるQT測定を行った。 |
| 125 | タクロリムス水和物 | タクロリムスはマウス皮膚発癌性を促進する。 |
| 126 | メクロプラミド | 健康人にメクロプラミドを静注して連続心電図にて不整脈誘発の指標となるQT測定を行った。 |
| 127 | 塩酸メホルミン | ピグアナイド系薬の長期投与を受けた2型糖尿病患者600例の調査において、ビタミンB12欠乏性巨赤芽球性貧血が54例に認められた。 |
| 128 | ニザチジン | ニザチジンはアセトアミノフェングルコニルトランスフェラーゼを阻害し、血中アセトアミノフェン濃度を増加させることから、パラセタモール(アセトアミノフェン)とニザチジンを同時服用する場合、注意が必要である。 |
| 129 | ニザチジン | ニザチジンはアセトアミノフェン - グルコニルトランスフェラーゼを阻害し、血中アセトアミノフェン濃度を増加させることから、アセトアミノフェンとの同時服用は避け、解熱鎮痛剤又は投与時刻の変更が必要である。 |
| 130 | シスプラチン | 子宮頸癌および膀胱癌の患者がCISPLATINを含む放射線化学療法にRECOMBINANT HUMAN ERYTHROPOIETINを併用した場合静脈血栓症リスクの上昇が見られた。 |
| 131 | イブプロフェン | ADRACは子癇前症や、本態性高血圧の既往をもつ患者に対して出産後の一定期間にNSAIDsを投与する場合は血圧を注意深くモニタリングすることが必要であると勧告している。 |
| 132 | 臭化ジスチグミン | 多発性硬化症患者において、臭化ジスチグミンが血液脳関門を通過する可能性が示唆された。 |

| | | |
|-----|-----------------------|--|
| 133 | ホリナートカルシウム | 高用量FU(週1回24時間投与)がFU(ボース投与)/LVより有効であるか、高用量FUがLVによりモジュレーションされ得るかを調べる試験を実施した。 |
| 134 | 胎盤性性腺刺激ホルモン | 成人女子GHDの不妊治療後のOHSS 3症例。 |
| 135 | エストラジオール | 高血圧を有するホルモン補充療法使用者における卒中リスク上昇が示唆された。 |
| 136 | エストラジオール | ホルモン補充療法についてCYP2B6で代謝される薬剤と相互作用の可能性が示唆された。 |
| 137 | バルサルタン | バルサルタンは、MOATを排泄機構にもつプラバスタチンやその他の薬物との併用により血圧低下の延長が生じる可能性があると考えられる。 |
| 138 | メクロプラミド | 健康人にメクロプラミドを静注して連続心電図にて不整脈誘発の指標となるQT測定を行った。 |
| 139 | エチゾラム | 精神神経用剤エチゾラムが正常眼圧緑内障患者の眼圧に与するかどうかを検討した。 |
| 140 | カルバマゼピン | 抗けいれん薬によるHSを生じ、発熱、皮疹と一致して肝機能障害の発現を認めた。 |
| 141 | ヘパリンナトリウム | 肺塞栓症の患者にFondaparinuxの皮下投与とヘパリンの静脈内投与を行い、効能および安全性を検討した結果、一人の患者が出血により死亡した。 |
| 142 | クエン酸クロミフェン | 妊娠継続のためクロミフェンを投与された妊婦において、広義の胎児共存奇胎と続発腫瘍が発現するおそれがある。 |
| 143 | 沈降破傷風トキソイド | 薬剤投与やワクチン接種により、急性の胸痛出現や心逸脱酵素レベルがゆるやかに上昇、あるいは好酸球増多が見られた際、測定した心電図に変化が現れた時には、過敏症心筋炎の可能性を考慮すべきである。 |
| 144 | メクロプラミド | 健康人にメクロプラミドを静注して連続心電図にて不整脈誘発の指標となるQT測定を行った。 |
| 145 | 塩酸ピオグリタゾン | 心疾患合併患者、あるいはチアゾリジンジオン系薬剤(以下、TZD)服用中に浮腫あるいは予想外の体重増加をきたした患者に対するTZDの適正使用に関するガイドラインが米国心臓病学会および米国糖尿病学会による合同声明としてCirculation誌上の公表された。 |
| 146 | プレドニゾン | 亜急性甲状腺炎のステロイド治療中に急性冠閉塞を繰り返した。 |
| 147 | インフルエンザHAワクチン | 出生時、超低出生体重時。1999年6月、神経芽細胞腫のため手術。アレルギー歴、医薬品・造影剤副作用歴については不明である。2001年1月9日、1月16日にインフルエンザワクチンを接種。2001年2月15日より跛行。約1週間進行し、頻回に転倒するようになる。2001年2月20日、手も、うまく物がつかめなくなる。2001年2月21日、入院。副作用治療は不明で、2001年3月24日回復。 |
| 148 | ケトコナゾール | 本剤との併用によりミダゾラムの代謝が阻害され効果が増強する可能性がある。 |
| 149 | ケトコナゾール | ホルモン耐性前立腺癌患者におけるドセタキセルとケトコナゾールの併用療法が重大な副作用を惹き起こす可能性がある。 |
| 150 | ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン | 3年間に製造された米国免許を有する5製造会社で製造された異なる7製剤のIGIV製剤の100ロット以上の抗D抗体を測定した。 |
| 151 | インドシアニングリーン | 黄班円孔(MH)や黄班上膜(EMP)に対してICGを0.3から0.4mlもちいた内境界膜剥離後に何らかの視野障害が11例中5例にあらわれた。 |
| 152 | インドシアニングリーン | 黄班円孔内境界膜剥離術において眼の内境界膜の視認性向上のためにICG染色を実施した場合と実施しなかった場合の改善率。 |
| 153 | カルペリチド | 米国での急性呼吸窮迫症候群に対する治験にてプラセボ群に比し実薬群において死亡率が高かった。一方、国内での急性肺障害に対する治験ではプラセボ群に比し実薬群で死亡率は低かった。 |
| 154 | エボエチン(遺伝子組換え) | エリスロポエチンはがんの発生率を低下させる可能性がある。 |
| 155 | エストラジオール | デンマークでホルモン補充療法の骨粗鬆症予防に関する臨床試験が乳癌のリスク上昇が認められたことにより中止となった。 |
| 156 | メシル酸イマチニブ | 日本におけるイマチニブとの関連が疑われる間質性肺炎について検討を行った。 |
| 157 | エストラジオール | ホルモン補充療法がCYP2B6によるブプロピオンの加水分解を顕著に阻害し、相互作用が示唆された。 |
| 158 | エストラジオール | 高血圧を有するホルモン療法の現使用者において卒中リスク上昇が示唆された。 |

| | | |
|-----|---|--|
| 159 | エストラジオール | ホルモン補充の骨粗鬆症予防効果に関する臨床試験において、ホルモン療法を自ら選択したサブグループにおいて乳癌リスク上昇が確認され、試験が10年で中止となった。 |
| 160 | 乾燥スルホ化人免疫グロブリン | 血管疾患を有する患者でのIVIg急速投与は血栓塞栓症のリスクを増加させる。 |
| 161 | アセトアミノフェン | アセトアミノフェン中毒により劇症肝不全を合併した。 |
| 162 | ジアゼパム | 悪性症候群症例24例の血液検査所見と薬物使用状況の調査において、2例でジアゼパムの投与が関与していた。 |
| 163 | ミダゾラム | nefazodone投与によるmidazolamのAUC(444.0%増加)、およびfluvoxamineによるAUCの増加傾向(66.1%増加)、nefazodone投与により認識機能を低下させた。 |
| 164 | レボドパ・カルビドパ | wearing-offは患者の状態・病気の進行状況でも起こりうるし、長期の薬物療法でも起こりうる症状である。 |
| 165 | マレイン酸フルボキサミン | セロトニン作動性抗うつ薬と整形外科領域の手術前後の失血と輸血のリスクの関係について。 |
| 166 | マレイン酸フルボキサミン | セロトニン作動性抗うつ薬と整形外科領域の手術前後の失血と輸血のリスクの関係について。 |
| 167 | クエン酸タモキシフェン | CYP2D6阻害剤であるSSRIの一種であるパロキセチンの併用によりTAMの代謝に与える影響について検討した。 |
| 168 | フェニトインナトリウム | フェニトインナトリウム注又はベントリンビタルナトリウム注に接触した三方活栓にひび割れが生じた。 |
| 169 | アミノフィリン | アミノフィリン注に含有されるエチレンジアミンによる過敏症の1例。 |
| 170 | ロキソプロフェンナトリウム | アモキシシリンとロキソプロフェンの投与により薬剤性出血性大腸炎を来した例。 |
| 171 | ロキソプロフェンナトリウム | 急性骨髄性白血病患者の発熱時にロキソプロフェンを投与したところ著明な血圧低下を来した例。 |
| 172 | クエン酸タモキシフェン | タモキシフェンを投与された女性の子宮内膜においてTAM-DNA付加体が検出されたことから、霊長類の子宮及び他の組織におけるTAM誘発の遺伝毒性損傷を成熟雌カニクイザルで検討した。 |
| 173 | シスプラチン | シスプラチンを含む併用化学療法を進行肝内胆管がん患者39例に投与したところグレード3/4の血液毒性として白血球減少、好中球減少、血小板減少を非血液毒性としては悪心、倦怠感が認められた。 |
| 174 | パクリタキセル | パクリタキセル単剤術前化学療法患者を対象に閉経状態について調査した。 |
| 175 | レノグラスチム | 重症慢性好中球減少国際登録のSCN375例のAML発症リスク、長期G-CSF治療患者のコホート研究について検討した。 |
| 176 | プロピオン酸フルチカゾン | プロピオン酸フルチカゾン吸入患者において、食道カンジダの罹患率が高かった。 |
| 177 | プロピオン酸フルチカゾン | 吸入ステロイド剤を高用量、長期間使用すると白内障発現のリスクが高くなる。 |
| 178 | プレドニゾン | 急性リンパ性白血病患者におけるAspergillus Fluvusの全身感染症。 |
| 179 | プレドニゾン | ステロイドパルス療法を施行した患者を病理解剖したところ浸襲性肺真菌症および播種性真菌症の所見があり、右下葉空洞病変に菌糸、僧房弁表面に疣贅、心筋、心外膜、甲状腺に心筋性膿瘍を認めた。 |
| 180 | バシリキシマブ | 術後二重膜濾過血漿交換療法(DFPP)を行った2例の血液型不適合移植を含む10例の腎移植例についてbasiliximabの薬物動態をELISA法を用いて検討した。 |
| 181 | サリチルアミド、アセトアミノフェン、無水カフェイン、マレイン酸カルフェニラミン | アセトアミノフェンに起因した劇症肝不全3例。 |
| 182 | アセトアミノフェン | アセトアミノフェンの投与によりover lap SJS-TENが発症した例。 |
| 183 | ジクロフェナクナトリウム | ジクロフェナク点眼液の投与により両眼性の角膜穿孔を来した例。 |
| 184 | ジクロフェナクナトリウム | 長期臥床患者に対しジクロフェナク坐薬を投与したところAHRUを来した例。 |
| 185 | B CG膀胱内用 | 膀胱癌に対するBCG膀胱注免疫療法後にシェーングレン様症候群を発現した1症例について。 |
| 186 | ブデソニド | 副腎皮質ステロイド累積投与量と大腿骨骨折のリスクについて。 |
| 187 | ブデソニド | 一般的にコルチコステロイド間の交叉アレルギーは知られているが、特定のCSに対してアレルギーを持つ患者でも他のCSに対して通常認容性があることから他のCSによる治療を考慮すべきである。 |

| | | |
|-----|---------------------|--|
| 188 | メキシサレン | 長期間P U V A療法を受けた尋常性乾癬にS C Cと角化性結節が多発した1例。 |
| 189 | 開始液、維持液 | 小児に対する輸液は、初期輸液は生理的食塩水を基本とすること、重症脱水症患児に対する維持輸液は少なくとも中枢神経疾患における低張液の使用に慎重になること。 |
| 190 | 塩酸ミキサントロン | 乳癌後の白血病の危険因子としてアントラサイクリンやアントラセネジオン、アルキル化剤の累積投与量、放射線療法、癌の家族歴について評価した。 |
| 191 | フマル酸ホルモテロール | 喘息患者に対する臨床試験においてFormoterol投与群で本剤との因果関係が不明な死亡例13件が認められた。 |
| 192 | 細菌学的検査用試薬 | 測定結果の判定法の変更が必要となった。 |
| 193 | エストラジオール | ホルモン療法の骨粗鬆症予防効果に関する臨床試験において、ホルモン療法を自ら選択したサブグループにおいて乳癌リスク上昇が確認され、試験が10年で中止となった。 |
| 194 | プレドニゾン | 慢性関節リウマチ患者でプレドニン投与中、結核性リンパ節炎に引き続き急性骨髄性白血病と膀胱癌が発生し悪性腫瘍の顕在化した。 |
| 195 | セファクロル | 歯にメロニダゾール・セファクロル・シプロフロキサシンの混合粉末の充填処置を受けた男性がセファクロルによるアナフィラキシーショックを発症した。 |
| 196 | ワルファリンカリウム | ワルファリンカリウムを投与した患者に脳内出血、硬膜下血腫、死亡するという副作用が発現した。 |
| 197 | セファクロル | 歯科治療の際に歯根管に充填されたセファクロルによるアナフィラキシーの1例。 |
| 198 | 乾燥スルホ化人免疫グロブリン | グロブリン療法を行った多巣性運動ニューロパチーの患者が投与から6時間後に輸血関連急性肺障害を発症した。 |
| 199 | プレドニゾン | ネフローゼ症候群、橋本病のためプレドニゾン内服中に粟粒結核症を発症した。 |
| 200 | ワルファリンカリウム | ワルファリンと克蘭ベリージュースとの相互作用により、ワルファリンの作用が増強されたことが考えられた。 |
| 201 | シスプラチン | 食道癌集学的治療後の長期経過観察中に治療に関連したと考えられる甲状腺機能低下症について。 |
| 202 | インドメタシン | - グルカンとインドメタシンの併用投与における致死毒性。 |
| 203 | テガフル・ギメサル・オテラシルカリウム | 本剤を投与した頭頸部癌患者38例のうち、グレード3、4症例は0-5%で骨髄抑制、口内炎、消化器症状であった。 |
| 204 | 塩酸リトドリン | 妊娠中の塩酸リトドリン点滴投与が非投与にくらべ骨密度(B M D)を低下させる可能性が示唆された。 |
| 205 | アレンドロン酸ナトリウム | アレンドロネートは、男性において腰椎と大腿骨頸部の骨塩密度を増加させる副甲状腺ホルモンの力を弱める。 |
| 206 | アレンドロン酸ナトリウム | 閉経後骨粗鬆症患者における比較試験を実施したところ胃・十二指腸穿孔が発現した。 |
| 207 | 防風通聖散 | 防風通聖散の関与が否定出来ない肝機能障害の報告が増加している。 |
| 208 | 防風通聖散 | 防風通聖散を服用した患者に肝機能異常が発現。 |
| 209 | インドシアニングリーン | 黄斑円孔手術の内境界膜剥離に際し、内境界膜をインドシアニングリーンで染色した群(染色群)と染色しなかった群(非染色群)の視機能を比較したところ、染色群の50%に鼻側の視野欠損が認められた。また、染色群では有意な視野改善はみられなかった。 |
| 210 | 塩酸ロベラミド | クロザピンを服用中の感染症腸炎患者の下痢に対してロベラミドを投与したところ感染症腸炎とは異なる原因菌であるvanilla saucelによる腸感染症であることが判明し、症状発症後、約16時間後に死亡。 |
| 211 | ダナゾール | 子宮内膜症治療剤ダナゾールにより卵巣癌のリスクが増大した。 |
| 212 | 塩酸ブプレニルフィン | ブプレニルフィンの投与により呼吸抑制が生じ、プロマゼパムとの相互作用により増強されたと考えられた例。 |
| 213 | エチゾラム | 5種類の向精神薬の併用により中毒性網膜症が発症したと考えられる例。 |
| 214 | ヘパリンナトリウム | 透析導入後にみられた血小板減少を来した1例。 |
| 215 | ケトプロフェン | パラセタモールとシクロオキシゲナーゼ阻害剤との併用は、中動脈や小血管の血管収縮により重症パラセタモール中毒を増悪させる可能性がある。 |
| 216 | フェニトイン | フェニトインの関与が否定出来ないイレウス様症状。 |

| | | |
|-----|----------------|--|
| 217 | アミノフィリン | 気管支喘息の治療中にアミノフィリン、メチルプレドニゾロンを投与したところ横紋筋融解症を発症した1例。 |
| 218 | 塩酸チクロピジン | チクロピジンにより血栓性血小板減少性紫斑病を発症した例。 |
| 219 | 酢酸クロルマジノン | 酢酸クロルマジノンの投与により急性肺塞栓症を来した例。 |
| 220 | フルコナゾール | フルコナゾールはナテグリニドの血漿中濃度を高め、ナテグリニドの血糖降下作用を延長させる可能性がある。 |
| 221 | プレドニゾロン | ステロイド投与による房室伝導障害の改善が房室結節回帰性頻拍をもたらしたサルコイドーシスの1例。 |
| 222 | ランソプラゾール | 酸分泌抑制剤使用者では、非使用者と比較して市中感染性呼吸器感染症が多い。 |
| 223 | 塩酸ドバミン | イノバン注シリンジにXテンションチューブを接続しシリンジポンプにて投与したところ等間隔で空気の混入がみられた。 |
| 224 | エストラジオール | エストロゲンを過去に使用した群での、腎臓癌リスクの増加を示唆する結果が得られた。 |
| 225 | アセトアミノフェン | アセトアミノフェンを服用した男児にoverlap SJS - TENが発現。 |
| 226 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 227 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 228 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 229 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 230 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 231 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 232 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 233 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 234 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 235 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる腎症。 |
| 236 | 酒石酸メプロロール | 肝代謝酵素CYP2D6の遺伝子サブタイプは、メプロロールの薬物動態に影響を与え(特に日本人の中老年患者において)クリアランスを低下させ、メプロロールの作用が強くなる可能性が考えられた。 |
| 237 | エキセメスタン | マウスを用いたがん原性試験において、雌雄マウスの中・高用量群に肝細胞腺腫および肝細胞癌の増加が、また雄マウスの最高用量群に良性腎腫瘍の発現率の増加が認められた。 |
| 238 | エポエチン (遺伝子組換え) | 生後2週間からrHuEpo、経口鉄剤、葉酸及びビタミンEを投与された超低出生重児3例に血管腫が発現した。 |
| 239 | ロキソプロフェンナトリウム | ロキソプロフェンナトリウムの投与により薬剤性急性肺障害を発症した例。 |
| 240 | トラネキサム酸 | トラネキサム酸使用が誘因となり膝窩動脈血栓症を発症したと推測された例 |
| 241 | エポエチン (遺伝子組換え) | epoetin に関するImportant Drug Safety Information及びPublic advisory:慢性腎不全患者に対するepoetin の製品モノグラフ警告、副作用等の項を改訂。 |
| 242 | エストリオール | 1996年1月から2000年12月に乳房X線造影剤を行った女性について、エストロゲン単独で使用している女性およびエストロゲンとプロゲステロンとの併用している女性に対して、乳癌の危険率を検討した。結果、エストロゲン単独の使用方法で乳癌の発生率が有意に高くなる可能性があった。 |
| 243 | ワルファリンカリウム | ワルファリンとXimelagaranについて、塞栓症の予防に関し優劣を比較した結果、ワルファリンはXimelagaranよりも多く、心膜、腹膜、関節、脊柱に出血が発生した。 |
| 244 | ブスルファン | 小児癌の70%は回復するが、放射線療法と化学療法は卵巣機能を損傷する可能性がある。 |
| 245 | ソマトロピン | GH治療はインスリン抵抗性を増加させることにより耐糖能に影響を与えられ、耐糖能異常の出現及び糖尿病の発症については、注意深い長期の経過観察が必要である。 |
| 246 | メロニダゾール | 18例の細菌性肝腫瘍患者のうち、メロニダゾール投与が有効であった6例中2例にMRSA腸炎が発症した。 |

| | | |
|-----|-------------|--|
| 247 | ジアゼパム | 防風通聖散の長期服用中に肝障害の劇症化に至った症例。 |
| 248 | メトトレキサート | MEA療法による副作用としてgrade4の白血球の減少及び血小板の減少がそれぞれ4%および5%発現した。MEA療法とFA療法による現在の化学療法は高リスク妊娠性絨毛癌に対し効果があり、毒性は受け入れられるまたは管理出来る程度のものであった。 |
| 249 | メトトレキサート | 乳癌と診断され、手術後アジュバント化学療法として1984年から1998年に静注によるCMF量法を開始した患者750例において検討した。 |
| 250 | エストラジオール | 過去のエストロゲン補充療法施行が、腎臓癌のリスクファクターであることを示唆する結果が得られた。 |
| 251 | メロニダゾール | メロニダゾールを使用して治療されたトリコモナス膣炎の女性から生まれた子はメロニダゾールを使用しなかった群に比べて、早産率、低体重児の出生率、2年間での死亡率が高かった。 |
| 252 | ワルファリンカリウム | ジゴキシン、フェニトインおよびワルファリンを常用していた患者について、服用方法等も正常であったが、胃腸・心膜の出血を起こし、死亡した症例。 |
| 253 | アセトアミノフェン | アセトアミノフェンは血管には直接作用しない。また、NSAIDsは生理的状況では血管緊張性に悪影響を及ぼさないが、全身性炎症反応症候群のある状況では血管COXの阻害で小動脈血管収縮を悪化させる。 |
| 254 | クロバザム | クロバザムは難治の成人のてんかんに有効であるが、耐性の発現率や副作用の発現率も高かった。副作用のスクリーニングとして、デスメチルクロバザム血中濃度とデスメチルクロバザム/クロバザム血中濃度比は有用と考えられ、活性代謝物であるデスメチルクロバザムが有効性の面だけでなく、安全性の面でも関与している可能性が示唆された。 |
| 255 | シスプラチン | 上咽頭左側壁腫瘍と左頸部リンパ節腫大がみとめられ、CDDPと5-FUを併用した化学放射線療法(総線量66Gy)にて完全寛解したが、治療10年後、骨肉腫と診断され、同病変は放射線治療照射野内に発生しており、化学放射線療法後の二次的骨肉腫と診断された。 |
| 256 | メトトレキサート | 1994年1月から2000年9月までのドイツの泌尿器癌センター40施設から325症例を無作為にCM療法又はMVEC療法にわけたところ、アジュバントCM療法を受けた患者ではMVEC療法を受けた患者よりもグレード3/4の白血球減少は少なかった。しかし、薬物関連死がCM療法で2例みられたが、MVEC療法では死亡例はなかった。 |
| 257 | ホリナートカルシウム | 前治療のある進行性結腸直腸癌でペバシズマブに関する臨床試験で本剤を併用した患者において2例死亡(脳出血1例、肺機能不全1例)が報告された。 |
| 258 | ホリナートカルシウム | 大腸癌術後補助療法としてのLV5FU2単独とLV5FU + CPT-11の比較試験で、本剤併用群で1例が治療関連死した。 |
| 259 | エストラジオール | エストロゲンを過去に使用した群での、腎臓癌リスクの増加を示唆する結果が得られた。 |
| 260 | プレドニゾン | 慢性関節リウマチのためプレドニゾン25mg/日を内服した男性にEnterococcus faecalisによるFourniers gangrene壊死性筋膜炎が発症した。 |
| 261 | ニトラゼパム | 多種類の向精神薬内服による網膜症の発症。 |
| 262 | ヒトインスリン | 救急搬送された心肺停止(CPA)患者270名のうち、血糖値が明かな167名を対象とし、低血糖のCPA患者について「トラスバクティブ」に検討した結果、CPAあるいは低血糖の原因としてインシュリンが考えられた1例症例報告。 |
| 263 | 塩酸アムルピシン | 再発小細胞肺癌に対し、塩酸アムルピシンを投与し、13例中7例に発熱性好中球減少が見られたとの報告があった。 |
| 264 | プレドニゾン | 化学療法施行後に小腸穿孔を繰り返した悪性リンパ腫の1例。 |
| 265 | ポリフィマーナトリウム | 切除不能胆管癌(NCC)の患者39名を対象とした群配列デザインのプロスペクティブオープンラベル無作為化多施設共同試験において、致死の有害事象の胆管炎および敗血症が発現した。 |
| 266 | 塩酸ビルジカイニド | Brugada型心電図変化を有する症候性・無症候性の患者に対し、本剤負荷試験を施行した結果、症候例では無症候例に比べ、本剤による負荷試験時に心室性不整脈が誘発された頻度が高かった。 |
| 267 | インドシアニングリーン | 黄斑円孔手術において、円孔閉鎖率を高める目的で内境界剥離術が行われるが、その視認性の向上のためインドシアニングリーン染色が行われてきた。しかし、最近ではICGによる網膜毒性についての報告がみられる。今回、ICGを用いた硝子体手術の視力成績から、その網膜毒性について臨床的に検討した。 |
| 268 | インドシアニングリーン | インドシアニングリーン(ICG)染色による内境界膜剥離を併用した黄斑円孔(MH)及び黄斑前膜(ERM)術後の網膜神経線維層厚の変化を光干渉断層計にて検討した。 |

| | | |
|-----|---------------|---|
| 269 | レセルピン | レセルピンによるIRSB施行後、著名な起立性低血圧と強度の頭痛が生じた。 |
| 270 | エチゾラム | 多種類の向精神薬内服による網膜症と考えられる一症例。 |
| 271 | ホリナートカルシウム | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 272 | ホリナートカルシウム | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 273 | ホリナートカルシウム | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 274 | ホリナートカルシウム | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 275 | ホリナートカルシウム | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 276 | メソトレキセート | 抗癌剤の動注療法は高濃度の抗癌剤を直接腫瘍へ作用させることで局所的抗腫瘍効果を高め、全身性副作用を低くしようとする方法である。抗癌剤の動注療法を施行し、治療効果と合併症について検討した。 |
| 277 | ホリナートカルシウム | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 278 | ホリナートカルシウム | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 279 | 塩酸ミトキサントロン | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 280 | デキサメタゾン | 化学療法が誘発する嘔気および嘔吐予防のため、530名の患者に標準療法(オンドанセトロンとデキサメタゾン)とアプレピタント療法(オンドанセトロンとデキサメタゾンにアプレピタントを追加)の何れかを投与し、その有効性及び安全性について比較した多国施設、二重盲検試験の研究報告。 |
| 281 | デキサメタゾン | デキサメタゾン等を肝動脈注入した群において、毒性としてgrade3の好中球減少症及び下痢、grade4のビリルビン上昇が認められた。 |
| 282 | ニトログリセリン | 陳旧性心筋梗塞患者における長期間の硝酸薬持続投与は、心事故を増大する。 |
| 283 | 塩酸ヒドララジン | Nifedipine, labetalol, isradipineを投与した場合と比較すると、妊娠中の重症高血圧患者の第一選択薬としてhydralazineを使用することを支持するものではないとの結果を得た。 |
| 284 | デキサメタゾン | ホルモン抵抗性前立腺癌の患者16名に対して、ミトキサントロン、ドキタキセル、デキサメタゾン及びブレドニゾンから成る化学療法を行い反応率等の有効性を評価。 |
| 285 | 塩酸バンコマイシン | Pennsylvania州のHershey Medical Centerに入院した患者から2002年9月にバンコマイシン耐性MRSAが分離された。 |
| 286 | アンブレナビル | アタザナビルとアンブレナビルの併用によりアンブレナビルの血中濃度は上昇する。 |
| 287 | ジクロフェナクナトリウム | HBVキャリア患者において、感冒様症状のためジクロフェナクナトリウム坐剤を使用したところ、GOT、GPT、ビリルビンが上昇し、薬剤性肝炎が疑われた。 |
| 288 | 沈降破傷風トキソイド | 破傷風ワクチン接種後に急性心筋炎を発現した1例。 |
| 289 | フルオロウラシル | 乳癌にて右乳房切除後、5-FU+TAMIIによる化学療法を2年間施行し、その3年後に汎血球減少を指摘された。 |
| 290 | スピロラクトン | 重症のうっ血性心不全患者へのスピロラクトン服用は腎機能障害や高カリウム血症を引き起こす可能性があるため、患者コホートを追跡調査し、有害作用の予測因子を同定した。その結果、以前に考えられていたよりも高頻度の有害作用と関連しており、予測因子として年齢や過剰な利尿を可能性として示唆している。 |
| 291 | ミコフェノール酸モフェチル | 免疫抑制剤ミコフェノール酸モフェチルは、下痢等の消化管障害がよく知られている。承認時までの調査では下痢の発現率は281例中37例であったが、市販後には承認時よりも高頻度で下痢を発現すると言われている。そこで今回、MMF服用者と非服用者間でも下痢の発現頻度、発現時期、ならびに重症度について比較調査を行った。 |
| 292 | ジギトキシン | ジギトキシンによって、重篤なせん妄が発現した。 |
| 293 | ブレドニゾン | microscopic polyangiitisのためブレドニゾン治療を受けた女性が脳炎を伴う汎発性帯状ヘルペス感染症を罹患した。 |

| | | |
|-----|-----------------------|--|
| 294 | 塩酸ミキサントロン | ミキサントロンを使用した臨床試験において、本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。 |
| 295 | 塩酸ロメフロキサシン | lomefloxacin にE.coli WP2uvrA/pKM101に対して遺伝子突然変異誘発作用が認められた。 |
| 296 | ノルエチステロン・エチニルエストラジオール | 経口避妊薬の使用期間が長いほど、子宮頸癌のリスクが上昇した。 |
| 297 | 酢酸メドロキシプロゲステロン | エストロゲン及びプロゲステロンによる閉経後ホルモン療法を5年以上受けている患者では、ホルモン療法を受けていない患者に比して、予後が良好な腫瘍と予後が不良な腫瘍の双方を含む乳癌の発症率が高かった。 |
| 298 | テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム | テガフル/ギメスタット及びテガフル/ウラシルの使用経験。GOTが500mg/dl以上を呈した患者が各2例あった。 |
| 299 | ヒトインスリン | 血糖不安定の原因として甲状腺機能亢進症の合併が判明した例とインスリン抗体によるインスリン効果の不安定性、インスリン皮下注射における血中移行の不安定性、糖尿病性神経障害による胃腸運動の不安定性などが考えられた症例報告。 |
| 300 | ワルファリンカリウム | ワルファリン投与中の脳出血患者における初診時の神経学的症状例の比率及び死亡率の上昇について。 |
| 301 | 塩酸アミトリプチリン | 多種類の向精神薬内服による網膜症と考えられる1症例報告。 |
| 302 | 酢酸メドロキシプロゲステロン | エストロゲン及びプロゲステロンによる閉経後ホルモン療法を5年以上受けている患者では、ホルモン療法を受けていない患者に比して、予後が良好な腫瘍と予後が不良な腫瘍の双方を含む乳癌の発症率が高かった。 |
| 303 | プレドニゾン | prednisoloneを長期間内服した患者が感染症のため深頸部膿瘍に罹患した。 |
| 304 | エストラジオール | エストラジオール貼付剤使用例で乳癌を発症した。 |
| 305 | トラネキサム酸 | 上部消化管出血に対するトラネキサム酸使用が誘引となり膝窩部動脈血栓症を発症したと推測された1例。 |
| 306 | シスプラチン | 肝外転移を有する肝細胞癌に対し、FMP療法は優れた抗腫瘍効果を示した。 |
| 307 | ホリナートカルシウム | 本剤を併用薬として使用した臨床試験において、本剤との関連性を完全には否定出来ない死亡例が報告された。 |
| 308 | アスピリン | アスピリンを20年以上常用している女性では膵臓癌の発症リスクが上昇する可能性がある。 |
| 309 | クエン酸タモキシフェン | 子宮内膜症は閉経後女性に見られることはきわめて稀であるが、閉経後20年以上経っているにもかかわらず、両側卵巣内膜症性嚢胞にて開腹手術を施行した症例を経験した。 |
| 310 | インドメタシン | パラセタモールとシクロオキシゲナーゼ阻害剤との併用は、中動脈や小血管の血管収縮により重症パラセタモール中毒を増悪させる可能性がある。 |
| 311 | エピネフリン | エピネフリン注射器について米国から輸入途中で注射針の自然射出発生の有無を検討すると共に、携帯時の落下や圧力を加えた時の自然射出及び破損並びに機能の不具合の発生について検討した。 |
| 312 | ヘパリンナトリウム | ヘパリン投与例においてヘパリン起因性血小板減少症の発現が認められた。 |
| 313 | ヘパリンナトリウム | 血液透析中にヘパリンを使用した患者において、脈絡膜出血の発現を認めた。 |
| 314 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した男性患者について。 |
| 315 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した男性患者について。 |
| 316 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(呼吸困難)を発現した女性患者について。 |
| 317 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した女性患者について。 |
| 318 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(呼吸困難)を発現した男性患者について。 |
| 319 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(呼吸困難・咳)を発現した男性患者について。 |
| 320 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した男性患者について。 |
| 321 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(呼吸困難)を発現した男性患者について。 |

| | | |
|-----|-----------------------|--|
| 322 | 塩酸ミノサイクリン | 塩酸ミノサイクリン投与後薬剤性肺炎(発熱・呼吸困難)を発現した女性患者について。 |
| 323 | 塩酸アミトリプチリン | 向精神薬によると考えられる中毒性網膜症。 |
| 324 | アルファカルシドール | HRTとアルファカルシドール併用群とHRT単独群の骨粗鬆症に対する有用性を比較した多施設共同研究。 |
| 325 | ノルエチステロン・エチニルエストラジオール | 1984年から1988年の期間に生検により浸潤性子宮頸癌の確定診断を受けた20歳から44歳までの白人女性患者の症例に治験センターの症例を追加した子宮頸部の腺癌患者180名、及び扁平上皮癌患者391名を対象とし、対照群923名と比較したケースコントロール研究から、子宮頸部の浸潤性扁平上皮癌および腺癌のリスクファクターに関する結果を報告する。 |
| 326 | 硝酸イソソルビド | 陳旧性心筋梗塞患者における長期間の硝酸薬持続投与は、心事故を増大する。 |
| 327 | エストラジオール | エストラジオール製剤使用中に乳癌を発症した。 |
| 328 | ジクロフェナクナトリウム | アモキシシリンのラットにおける血清及び組織内濃度、S.aureus感染に対するジクロフェナクナトリウムの影響について。 |
| 329 | エストラジオール | 心疾患を有する閉経後女性へのホルモン補充療法により、胸囲の増加を生じた患者では冠動脈性心疾患による死亡リスク及び総死亡リスクが増加した。 |
| 330 | トロンピン | 静脈瘤出血の患者に、トロンピンとトラネキサム酸投与後、肺動脈血栓症を認め、その結果、肺動脈高血圧症、右心不全、右室心筋梗塞を合併した。 |
| 331 | トロンピン | 肺動静脈短絡を伴う肝硬変症の患者が、食道静脈瘤硬化療法の際、トロンピンとエタノール投与後に小肺梗塞と低酸素症の増悪を認めた |
| 332 | ジクロフェナクナトリウム | アモキシシリンのラットにおける血清及び組織内濃度、S.aureus感染に対するジクロフェナクナトリウムの影響について。 |
| 333 | ケトコナゾール | ドセタキセルとケトコナゾールとの併用が重大な臨床経過をもたらす薬物相互作用を起こす可能性がある。 |
| 334 | メトレキサート | 抗リウマチ薬の単剤投与あるいは多剤併用投与における副作用の発現頻度について検討を行った。 |
| 335 | プロピルチオウラシル | バセドウ病と診断され、PTU内服中、急速進行性腎炎を発症、腎生検で半月体形成腎炎と診断された。 |
| 336 | ポピドンヨード | 広範囲重傷熱傷患者にポピドンヨード製剤を使用したところ、ヨード中毒を来とし、腎不全、高塩素血症、代謝性アシドーシスを発症した例。 |
| 337 | 酢酸メドロキシプロゲステロン | 横断的研究において、閉経後ホルモン補充療法による治療群は未治療群に比し、偏頭痛が高頻度に発現したことが報告された。 |
| 338 | ソマトロピン | 長期にわたる成長ホルモン(GH)治療は、耐糖能低下とインスリン抵抗性を誘発する可能性があるため、注意深い経過観察が必要である。 |
| 339 | ジクロフェナクナトリウム | 膝又は股関節の変形性関節症患者に対して、エトリコキシブ60mgを1日1回、又はジクロフェナクナトリウム50mgを1日3回投与し、有効性及び認容性を評価し比較した。 |
| 340 | トラネキサム酸 | トロンピンとトラネキサム酸との併用禁忌 |
| 341 | トラネキサム酸 | トロンピンとトラネキサム酸との併用禁忌 |
| 342 | 下垂体性性腺刺激ホルモン | ゴナドトロピン療法により発症した卵巣過剰刺激症候群に脳梗塞が併発した。 |
| 343 | インターフェロン | 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)において、イソプリノシンの単剤投与とイソプリノシン+脳室内インターフェロン 2b(イントロンA)の併用投与の比較において有効性に有意差がなかった。 |
| 344 | 塩酸ミキサントロン | 未治療で高齢のlargeB-cell悪性リンパ腫の患者に対する簡潔で持続の化学療法の効果を調査する試験において、ミキサントロンとの関連性が完全には否定できない死亡例が4例報告された。 |
| 345 | 塩酸ミキサントロン | 幼年期の急性骨髄性白血病に対するInternational Outreach-97 protocolの結果、ミキサントロンとの関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。 |
| 346 | トリアムシノロンアセトニド | 922人に対して硝子体内へのトリアムシノロンアセトニド眼注術を施行したところ8人の急性眼内炎が報告された。 |
| 347 | スピロラクトン | 心不全患者に対するスピロラクトンとACE阻害薬もしくはアンジオテンシン 受容体阻害薬(AT ₂ 拮抗薬)の併用で高カリウム血症が発現した。 |
| 348 | メシル酸ジヒドロエルゴタミン | セロトニン症候群は、中枢神経系及び末梢セロトニン受容体活性が過度に更新することなく発症する。本症候群は、通常、セロトニン作動薬との併用により発生するが、単一薬剤でも起きる可能性がある。異なる作用メカニズム、例えば、セロトニン取り込みやセロトニン代謝を抑制することにより、セロトニン活性を更新する薬剤との併用は、特に可能性が高い。 |

| | | |
|-----|------------------------------|--|
| 349 | プラバスタチンナトリウム | スタチン系薬の高用量投与は、高齢者で腎または肝不全、糖尿病、甲状腺機能低下の患者で注意が必要となる。さらに特に注意が必要なのはシンバスタチンやアトルバスタチンが投与されている患者で短期間にマクロライド系抗生物質やアゾール系抗真菌薬と併用投与されると、一時的にこれらのスタチン系薬を中止する配慮が必要である。 |
| 350 | アンブレナビル | プロテアーゼ阻害剤(PI)の18ヶ月以上の投与は心筋梗塞の発症リスクを上げる可能性が示唆された。 |
| 351 | アザチオプリン | アザチオプリン投与により炎症性腸疾患患者での発癌リスクが上昇することが示唆された。 |
| 352 | 硝酸イソソルビド | 陳旧性心筋梗塞患者における長期間の硝酸薬持続投与は、心事故を増大する。硝酸薬間欠投与は、心事故を増大しないが、心事故の防止効果はない。 |
| 353 | クエン酸タモキシフェン | 乳癌で両側乳房切除術を施行したタモキシフェン20mg/日の服用を開始したところ視神経網膜症が発現した。タモキシフェン内服を中止して経過を観察したところ視力は徐々に回復し視神経乳頭の浮腫と網膜の浮腫、硬性白斑は消退した。 |
| 354 | アスピリン | 抗血小板療法中に胸腰椎に発生した脊髄硬膜外血腫の1例報告。 |
| 355 | メトトレキサート | 中枢神経系の非ホジキンリンパ腫患者にメトトレキサートの大量静脈内投与および随腔内投与を含むMBVP化学療法および放射線療法を施行し、重篤な血液毒性、感染症、口内炎、肝毒性、アレルギー反応、皮膚毒性等が出現し、治療に関連した死亡が6例認められた。 |
| 356 | メトトレキサート | C5Rレジメン療法についてGELA内でプロスペクティブな多施設試験を実施した。1995年から2002年の期間にHIV陰性のPCNSL患者102例に放射線療法を全脳照射20Gyおよび原発腫瘍部位への照射を伴う化学療法5コースを施行したが、61歳以上の患者でC5Rレジメンを施行するときは毒性が有意に問題となることが示唆された。 |
| 357 | フルバスタチンナトリウム | スタチン系薬の高用量投与は、高齢者で腎または肝不全、糖尿病、甲状腺機能低下の患者で注意が必要となる。さらに特に注意が必要なのはシンバスタチンやアトルバスタチンが投与されている患者で短期間にマクロライド系抗生物質やアゾール系抗真菌薬と併用投与されると、一時的にこれらのスタチン系薬を中止する配慮が必要である。 |
| 358 | デカン酸ハロペリドール | ハロペリドールを含む定型抗精神病薬服用中の患者は、非服用者と比較して有意な致死性肺塞栓症のリスクの上昇が認められた。 |
| 359 | グリチルリチンアンモニウム塩、アミノ酢酸、L-システイン | グリチルリチン酸アンモニウムを妊娠7-17日のSDラットに飲料水を介して投与したところ、同腹子の胎児において外表奇形の増加、体重の減少及び骨形成の減少は認められなかったが、胎児死亡率及び外出血の頻度に関し有意な増加が認められた。また、骨格検査により、投与量に依存して軽度の異常が特に胸骨変異について観察された。 |
| 360 | プレドニゾン | 重症潰瘍性大腸炎と診断され、ステロイドパルス療法、ステロイド動注療法などの内科的治療を施行していたが、腰痛が出現し直立困難になるなど、骨粗鬆症の増悪が懸念された。 |
| 361 | トラネキサム酸 | 血液透析患者にTNAを過量投与したところ視覚障害を引き起こしたことが強く示唆された。TNAは主に腎臓で代謝されるため、腎不全のある患者にTNAを投与する場合には注意が必要である。 |
| 362 | ダナゾール | ダナゾールとリュープロリド/ナファレリンについて、各々の薬剤と卵巣癌発生との関連性をcase-control studyで検討した結果、リュープロリド/ナファレリンと比較して、ダナゾールは卵巣癌発生の危険性を高め、アンドロゲンも卵巣癌の発生と関係があるかもしれないことが示唆された。 |
| 363 | 酢酸メドロキシプロゲステロン | 横断的研究において、閉経後ホルモン補充療法(HT)による治療群は未治療群に比し、片頭痛が高頻度に発現したことが報告された。 |
| 364 | グリチルリチンアンモニウム塩、アミノ酢酸、L-システイン | グリチルリチン酸アンモニウムを妊娠7-17日のSDラットに飲料水を介して投与したところ、同腹子の胎児において外表奇形の増加、体重の減少及び骨形成の減少は認められなかったが、胎児死亡率及び外出血の頻度に関し有意な増加が認められた。また、骨格検査により、投与量に依存して軽度の異常が特に胸骨変異について観察された。 |
| 365 | 硫酸サルブタモール | 喘息患者に対するホルモテロールとサルブタモールの有効性比較試験。投与期間は6ヶ月間。ホルモテロール投与群、サルブタモール投与群ともに喘息増悪や肺炎等の有害事象は出現した。 |
| 366 | テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム | 切除不能進行胃癌に対するTS-1を含む化学療法において、grade4のNeutropeniaが1例認められた。 |
| 367 | 塩酸バンコマイシン | 2002年の外眼部感染症患者から臨床分離株・ブドウ球菌属に対する累積発育阻止率を算出した結果、高度感受性域にない菌株について調査したところ、1例の患者の眼脂よりVCMIIに対するMIC値が>128 µg/mlを示した黄色ブドウ球菌1株が単離された。 |
| 368 | ハロペリドール | ハロペリドールによると思われる白血球減少1200/µlが出現したが、薬剤中止により好中球は回復した。 |

| | | |
|-----|------------------------|--|
| 369 | リファンピシン | 珪肺症を伴う潜伏結核感染(LTB1)患者に対し、リファンピシンとピラジナミド併用療法とイソニアジド単独療法を比較した場合、2RZの方が肝機能障害の発現率が高いという結果が報告された。 |
| 370 | ヒドロクロロチアジド | 高血圧治療にチアジド系利尿剤と遮断剤との併用することは糖尿病の発症リスクを増大する可能性がある。 |
| 371 | ノルエチステロン・エチニルエストラジオール | 経口避妊薬(OC)の使用は、子宮頸部腺癌及び扁平上皮癌のリスクを増加する可能性がある。 |
| 372 | プレドニゾン | アメーバ性大腸炎穿孔にアスペルギルス肺炎を併発した1例報告。 |
| 373 | エストラジオール | 乳癌既往のある女性へのホルモン補充療法(HRT)に関する無作為化臨床試験が中間解析によりHRT使用者の乳癌再発リスク上昇が示唆され、中止になった。 |
| 374 | エストラジオール | 心疾患を有する閉経後女性へのホルモン補充療法により、胸囲の増加を生じた患者または体重減少した者で冠動脈性心疾患による死亡リスクが増加した。 |
| 375 | リスベリドン | 抗精神病薬の投与により高齢者において糖尿病発現のリスクが上昇することが示唆されたが、定型及び非定型の薬剤間における有意差は認められなかった。 |
| 376 | エストラジオール | 乳癌既往のある女性へのホルモン補充療法(HRT)に関する無作為化臨床試験が中間解析によりHRT使用者の乳癌再発リスク上昇が示唆され、中止になった。 |
| 377 | レノグラスチム | 造血幹細胞移植後にG-CSFを投与した群と非投与群でGVHD発生や生存率を比較したところ、PBSCTでは差が無かったが、BMTではG-CSF投与群において、有意にGVHDの発生が増加し予後も不良であった。 |
| 378 | 酢酸エテノジオール・エチニルエストラジオール | 飲酒の継続とともに中用量ピルを常用していたアルコール性肝障害の女性患者が若年にもかかわらず、短期間でアルコール性肝硬変へと進展し、肝不全で死亡した。 |
| 379 | リン酸コデイン | 急性期帯状疱疹の疼痛に対し、リン酸コデインを投与しイレウスとなった1例報告。 |
| 380 | クエン酸フェンタニル | 患者自身が調節するフェンタニル貼付システムを使った多施設プラセボ対照試験における有害事象について、薬剤性の重篤例は中等度の悪心と嘔吐を伴う尿閉の1例であり、副作用により試験を離脱した例は実薬群で8例(5.6%)、プラセボ群で(10.6%)であった。 |
| 381 | シタラビン | AML(M2)を発症し、他院にて化学療法を施行し完全寛解し、骨髄移植等施行したが、骨髄穿刺にて低形成骨髄でMDSを認め免疫抑制剤を中止。その後、胃前庭部後壁に径5mmの陥没を認め、生検にて印環細胞癌と診断された。 |
| 382 | ケトプロフェン・1-メントール | パラセタモールとシクロオキシゲナーゼ阻害剤との併用は、中動脈や小血管の血管収縮により重症パラセタモール中毒を増悪させる可能性がある。 |
| 383 | ホリナートカルシウム | 結腸直腸癌患者での臨床試験において本剤との関連性が完全には否定できない死亡例が報告された。 |
| 384 | メトトレキサート | 臨床現場で慢性関節リウマチ患者をレフルノミド、レフルノミド/メトトレキサート併用療法またはインフリキシマブで治療した場合の生存解析。 |
| 385 | ミコナゾール | PVC輸液セットの可塑剤溶出および薬剤吸着。 |
| 386 | 下垂体性性腺刺激ホルモン | 下垂体卒中はその多くが下垂体腺腫の腫瘍内内出血によるところが多い。その起因は様々であるがホルモン剤投与によるものも多い。 |
| 387 | バルプロ酸ナトリウム | 妊娠中にバルプロ酸ナトリウム服用していた患者から産まれた兄弟3人がみな自閉症で、うち長女は二分脊椎症、長男は二分脊椎症と筋ジストロフィーを合併した。 |
| 388 | 塩酸ブレオマイシン | ホジキン病患者に対するブレオを含む化学療法(ABVD療法、EBVM療法)において、40歳以上で治療を開始し縦隔照射を受けた患者に、事象としての心筋梗塞合併症の発現リスクが増大した。 |
| 389 | エストロゲン | 乳癌既往のある女性へのホルモン補充療法により乳癌発現のリスクが上昇する。 |
| 390 | ベンチルヒドロクロロチアジド | イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤と遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告 |
| 391 | レセルピン・カルバゾクロム | イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤と遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告 |
| 392 | 塩酸リトドリン | リトドリンの長期使用は脳室周囲白質軟化症(PVL)発症の危険因子のひとつである。 |
| 393 | ラミブジン | 子宮内で抗レトロウイルス薬に暴露された児に先天異常の発現を認めた。 |
| 394 | カベルゴリン | セロトニン症状群に関連した薬剤について。 |

| | | |
|-----|----------------------|---|
| 395 | ブシラミン | ブシラミン内服中の女性に顔面、両下腿の浮腫を認め、両手指および足趾の爪が黄変した。投薬を中止したところ漸次胸水が減少し爪が正常化した。 |
| 396 | プレドニゾン | プレドニゾン長期投与中に緑膿菌性肺炎、左人工膝関節感染を発症した。 |
| 397 | デキサメタゾン | 中枢神経系原発悪性リンパ腫の患者65名に対して、高用量のメトトレキサートとシタラピンを中心とした全身化学療法(デキサメタゾン、ビンアルカロイド、イホスファミド、シクロホスファミドを含む)及びメトトレキサート、プレドニゾン、シタラピンの脳室内化学療法から成る治療を行い、反応率等の有効性、毒性を評価した。 |
| 398 | デキサメタゾン | 60歳以下で未治療の多発性骨髄腫の患者399名に対して大量化学療法を行い、その後、自家幹細胞を1回のみ(n=199)、あるいは、2回(n=200)移植し、生存率を比較した。 |
| 399 | プレドニゾン | 節外性NK/T細胞リンパ腫の患者22名に対して、イホスファミド、メトトレキサート、エトポシド、プレドニゾンの投与を3週間間隔で繰り返す救済療法を行い有効性を評価した。 |
| 400 | デキサメタゾン | 再発性または難治性リンパ腫の患者360名に対して、DHAP療法(デキサメタゾン、高用量シタラピン及びシスプラチン)またはESHAP療法(エトポシド、メチルプレドニゾン、高用量シタラピン、シスプラチン)を行い、有効性及び安全性を比較した。 |
| 401 | プレドニゾン | Aggressive性非ホジキンリンパ腫を持つ高齢患者にCHOP療法におけるドキシソルピシンに変えてリボゾーマルダウノルピシン、1~5日目プレドニゾン100mg経口投与を追加する療法(COP-X)の安全性と有効性を評価した。 |
| 402 | リン酸コデイン | リン酸コデイン投与中に嘔下困難等が発現した。 |
| 403 | メトトレキサート | 限局性骨肉腫患者に対して実施された第一選択治療で高用量イホスファミド追加投与の効果調査した試験において、敗血症ならびに電解質失調による3例の投与関連死が報告された。 |
| 404 | メトトレキサート | 中枢神経原発リンパ腫患者に対して実施されたパイロット第2相試験において、骨髄抑制による5例の投与関連死が報告された。 |
| 405 | メトトレキサート | 非ホジキンリンパ腫患者を対象としたACVBプレジメンを3週間ごとに4サイクル実施後、地固め療法を実施した群と標準的なCHOP(3週間隔で8サイクル)を実施した群とを比較する無作為化多施設共同第3相試験において、重篤な白血球減少、血小板減少、感染症の発現率及び投与関連の死亡率はメトトレキサートが投与されたACVB群の方が高かった。 |
| 406 | トコン | 家庭内での毒物治療としてトコンシロップを使用すべきでない。 |
| 407 | エストラジオール | 心疾患を有する閉経後女性へのホルモン補充療法により、胴囲の増加を生じた患者では冠動脈性心疾患による死亡リスク及び総死亡リスクが増加した。 |
| 408 | 硫酸アバカビル | 特定の患者群において、アバカビル過敏症とHLA-B領域の遺伝子マーカーとの関連が示唆された。 |
| 409 | 硫酸アバカビル | HLA-B*5701及びHsp70-HomM493Tの存在はアバカビル過敏症の発現に関与することが示唆される。 |
| 410 | ラムブジン | HIV母子感染予防の目的で周産期にジドブジン又はラムブジンに曝露された児はミトコンドリア機能障害の発現リスクが高い。 |
| 411 | 塩酸リトドリン | 塩酸リトドリンの投与が契機となり尿崩症を来した例。 |
| 412 | ロキソプロフェンナトリウム | ロキソプロフェンナトリウムの投与がインスリン自己免疫症候群の誘因であると考えられた例。 |
| 413 | ロキソプロフェンナトリウム | 食道癌術後再建胃管患者にロキソプロフェンナトリウムを投与したところ潰瘍穿孔による胃管心膜瘻を発症し、死亡に至った例。 |
| 414 | レボホリナートカルシウム | ロイコボリン又はアイソボリンを用いた転移結腸直腸癌の臨床試験で1名の治療関連死がみられた。 |
| 415 | 塩酸アムルピシン | 塩酸アムルピシンを投与した肺癌患者22例について、小細胞癌、非小細胞癌に対する奏効率は各20%、80%と治験段階と差が無かったが、癌肉腫に対する効果は認められなかった。 |
| 416 | 酒石酸メプロロール | イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤と遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告。 |
| 417 | 塩酸プロプラノロール | イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤と遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告。 |
| 418 | アテノロール | イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤と遮断剤の併用を処方しないよう医師に警告。 |
| 419 | テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム | 切除不能胃癌に対するCDDP+TS-1併用療法の成績の検討において、グレード4の白血球減少が1例認められた。 |
| 420 | テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム | 切除不能進行再発胃癌に対するティーエスワン投与症例において、グレード4の血小板減少が発現した。 |

| | | |
|-----|--------------|--|
| 421 | ブシラミン | 関節リウマチ患者におけるブシラミンによる落葉状天疱瘡の1例報告。 |
| 422 | プロムフェナクナトリウム | 白内障術後の非ステロイド抗炎症薬点眼による角膜上皮障害について検討した。 |
| 423 | 塩酸インデノロール | イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤と 遮断剤の併用を処方しなうよう医師に警告。 |
| 424 | トラフェルミン | B16-BL6マウスに移植したmalignant melanoma細胞がKCB-1により増殖と肺転移を促進した。 |
| 425 | トラフェルミン | B16-BL6マウスに移植したmalignant melanoma細胞がKCB-1により増殖と肺転移を促進した。 |
| 426 | トラフェルミン | B16-BL6マウスに移植したmalignant melanoma細胞がKCB-1により増殖と肺転移を促進した。 |
| 427 | ドンペリドン | 併用禁忌としてケトコナゾールがCCDSに追記された。 |
| 428 | ソマトロピン | 成長ホルモン投与開始4年後に側弯症を生じ、その後も投与を続け、側弯症が進行した。 |
| 429 | エストラジオール | WHI試験のエストロゲン単独療法の一時的停止。FDAがWHI試験のエストロゲン単独療法に関する結果の評価を計画している。 |
| 430 | ジクロフェナクナトリウム | 喘息患者についてアスピリン誘発喘息の発現率を再評価し、これらの患者のよく用いられる一般用医薬品の鎮痛剤に対する交叉過敏症を体系的に調査した。 |
| 431 | アセトアミノフェン | NSAID ₂ 起因性腸炎の臨床亜型を臨床像及び内視鏡像より明らかにし各々の機序を推測した。 |
| 432 | アンブレナビル | リトナビル200mgによりboostされたアンブレナビルの血中濃度はロピナビル400mgを追加することで減少する。 |
| 433 | プレドニゾン | プレドニゾンにて治療されていた患者において、腰椎圧迫骨折(ステロイド骨粗鬆症)を来した。 |
| 434 | プレドニゾン | ステロイド投与中の患者において腎カンジダ症が発現した。 |
| 435 | プレドニゾン | プレドニゾンによる高コレステロール血症発症。 |
| 436 | 塩酸パロキセチン水和物 | SSRI(paroxetineを含めた)の長期投与は乳癌発生リスクを増加させる可能性が示唆された。 |
| 437 | エトポシド | 急性リンパ性白血病の小児の患者において、PREDNISONEとの相互作用によるETOPOSIDEのクリアランス上昇がみられた。 |
| 438 | クラドリピン | クラドリピン投与を受けた慢性リンパ性白血病患者では肺癌の発現リスクが高まる。 |
| 439 | 塩酸ケタミン | 卵巣腫瘍術後の女性。術後創部痛の訴えあり、ケタラールを投与したところ依存性が発現した。 |
| 440 | ジクロフェナクナトリウム | 喘息患者についてアスピリン誘発喘息の発現率を再評価し、これらの患者のよく用いられる一般用医薬品の鎮痛剤に対する交叉過敏症を体系的に調査した。 |
| 441 | 塩酸メキシレチン | 塩酸メキシレチンなど複数の薬剤を服用中、多形滲出性紅斑を発現した。 |
| 442 | 人血清アルブミン | アルブミン液輸液後に死亡した8症例。 |
| 443 | エストリオール | エストロゲン単独療法で脳卒中発作の危険性が増大する。 |
| 444 | 塩酸ブニトロロール | 遮断薬とチアジド系利尿剤との併用により糖尿病発現の危険性が増大する。 |
| 445 | セフォタキシムナトリウム | セフォタキシムを投与した男児に薬剤誘発性無菌性髄膜炎が発現した。 |
| 446 | 酢酸リュープロレリン | 酢酸リュープロレリン又はゴセレリンを長期間投与した前立腺癌患者10例に骨粗鬆症又は骨折が認められた。 |
| 447 | アザチオプリン | 炎症性腸疾患(IBD)患者のうちアザチオプリン投与群において、悪性腫瘍の発現の危険性が高いことが示唆された。 |
| 448 | カルバマゼピン | カルバマゼピンとの併用によりシンバスタチンとその活性型代謝物アンド体の血中濃度が有意に低下した。 |

| | | |
|-----|------------------|--|
| 449 | 乾燥pH処理人免疫グロブリン | 治療抵抗性紅斑性狼瘡(LE)に対する低用量での免疫グロブリン静注治療(IVIg)の効果を検討した。そのうち皮膚血管炎が1例発現した。 |
| 450 | リネストレノール・メストラノール | HRT療法後の乳癌発現の危険率増加を疫学的に調べた。 |
| 451 | 下垂体性性腺刺激ホルモン | 不妊治療は内因性卵胞ホルモン産生を促し、暫定的に乳癌リスクを増大させる。 |
| 452 | ブシラミン | ブシラミン投与236日後に間質性肺炎が発現した。 |
| 453 | イオキサグル酸 | 意識障害、ショック、徐脈といった脳血管障害や循環器疾患を疑わせるような主訴で来院し、急性血液浄化にて速やかに改善した2症例の報告において、1例は増悪因子が造影剤とされた。 |
| 454 | ブスルファン | 同胞間末梢血幹細胞移植を受けた患者にRRT、BO、肺炎(各々1例)による死亡例がみられ、幹細胞移植の前処置に用いられた薬剤のなかにブスルファンが含まれていた。 |
| 455 | メトトレキサート | 脳原発悪性リンパ腫の治療において2例の間質性肺炎による死亡が報告された。 |
| 456 | エストラジオール | 乳癌の履歴のある女性へのホルモン補充療法に関する臨床試験が中間解析で乳癌再発リスク増加が示唆された後、中止となった。 |
| 457 | ホリナートカルシウム | ホリナートカルシウムを併用した化学療法によるフェニトインの薬効減弱。 |
| 458 | ワルファリンカリウム | PGI2持続静注療法中のPPH患者にワルファリンを併用したところ肺出血を来した例及びPGI2持続静注療法における抗凝固療法の必要性について。 |
| 459 | エストリオール | エストロゲン及びプロゲステン併用療法は、プラセボ投与群に比し結腸直腸癌の発現率は低かったものの、癌進行度は高かった。 |
| 460 | プロピルチオウラシル | PTUによると考えられるMPO-ANCA陽性半月体形成腎炎の発症 |
| 461 | 塩酸ゲムシタピン | 再発非小細胞肺癌に対するドセタキセルとドセタキセル・ゲムシタピン併用の第 相比較試験中間報告においてドセタキセルとゲムシタピンの併用は肺臓炎のリスクが高いと考えられる。 |
| 462 | リン酸デキサメタゾンナトリウム | デキサメタゾン投与早産児における高発現率の腎石灰症。 |
| 463 | ブラバスタチンナトリウム | スタチン系薬の使用が悪性リンパ腫に対するリスク因子になる可能性がある。 |
| 464 | ミダゾラム | 小児MCLSにおける グロブリン大量静注療法(IVGG)不応例に対する血漿交換療法(PEX)を行う際のミダゾラム使用症例について。 |
| 465 | リファンピシン | セリプロロールとリファンピシンとの相互作用。 |
| 466 | ロラタジン | ロラタジンと尿道下裂との関連性について評価するためにCDC(米国疾病管理予防センター)が実施したケース・コントロールスタディーで関連性は認められなかった。 |
| 467 | ダイズ油 | クローン病患者がTPN治療によって肺動脈幹閉塞および肺胞の肉芽腫を発症した症例。 |
| 468 | エストラジオール | 経口避妊薬使用経験のない併用ホルモン補充療法使用者において、乳管癌のわずかなリスク増加が示唆された。 |
| 469 | エストラジオール | WHIの臨床試験ではエストロゲン・プロゲステン併用により大腸癌リスクが減少したが、ホルモン補充療法群の女性は大腸癌はプラセボ群の女性よりも進行した時点で診断された。 |
| 470 | ホリナートカルシウム | ホリナートカルシウムを併用した化学療法によるフェニトインの薬効減弱。 |
| 471 | メトトレキサート | 切除不能または転移性の移行上皮癌(TCC)患者(21名)を対象としたゲムシタピン、ハクリタキセル、及びメトトレキサート併用療法の臨床試験において、敗血症性ショックによる死亡が1例報告された。 |
| 472 | メトトレキサート | 手術不能又は転移性尿路上皮癌患者(220名)を対象とし、ドセタキセルおよびシスプラチン併用のDC療法とMVAC療法を比較した無作為化第3相試験において好中球減少性敗血症による死亡が2例報告された。 |
| 473 | プレドニゾロン | プレドニゾロンによる維持療法中にカリニ肺炎、投与減量中に左結核胸膜炎を発症。 |
| 474 | セフォチアム | 抗生物質の使用は、乳癌発症のリスクを上昇させる。 |
| 475 | ピンドロール | イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤と 遮断剤の併用を処方しなうよう医師に警告。 |
| 476 | インダパミド | イギリス規制当局、高血圧治療におけるチアジド系利尿剤と 遮断剤の併用を処方しなうよう医師に警告。 |

| | | |
|-----|---|---|
| 477 | 化粧品(洗顔料) | 消費者から眼の諸症状(膜がかかったようになる、痛み、かすみ、赤み、刺激及び目やに)についての訴えがあった。 |
| 478 | 化粧品(メイク落とし) | 使用后、眼痛のため開眼困難となり眼科を受診した。 |
| 479 | コウジ酸 | in vitro遺伝毒性とin vivo遺伝毒性について。 |
| 480 | コウジ酸 | ショウジョウバエ変異原性試験と肝RDS試験について。 |
| 481 | コウジ酸 | 単回強制経口投与(マウス、ラット)試験、肝小核試験(マウス)等について。 |
| 482 | コウジ酸 | 遺伝毒性と塗布使用によるヒト健康へのリスク評価について。 |
| 483 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン、乾燥弱毒生風疹ワクチン、乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン、コレラワクチン、沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド、沈降破傷風トキソイド、沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン、乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン、百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン、ジフテリアトキソイド、ジフテリア破傷風混合トキソイド、乾燥破傷風抗毒素、沈降精製百日咳ワクチン、百日咳ワクチン、乾燥痘そうワクチン、痘そうワクチン、ワイル病治療血清、日本脳炎ワクチン | 北海道の5カ所の牧場で335の牛血清サンプルを用いウシ白血病ウイルスとウシ免疫不全ウイルスの垂直下感染について調査した。 |
| 484 | 乾燥弱毒生麻しんワクチン、乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン、乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン、インフルエンザHAワクチン、インフルエンザワクチン | WHOは全ての国々にインフルエンザ流行の際は各国の世界規模流行計画委員会を設置するよう勧告している。 |
| 485 | 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン | 2003年前半に日本で輸血を受けた男性がHIVに感染したとの発表があった。 |
| 486 | 塩酸バンコマイシン | バンコマイシン点滴静注用の使用医療機関において、VREの発現に関する情報を入手した。 |
| 487 | インフルエンザHAワクチン | 血液抗凝固剤服用患者においてインフルエンザワクチン接種後に循環虚脱、顆粒球・好中球減少症、腎不全を発症した。 |
| 488 | はしか生ワクチン、乾燥弱毒生風しんワクチン、おたふくかぜ生ワクチン | 1998年7月から台湾の各養豚場におけるインフルエンザ流行調査を行った。 |
| 489 | ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン | 血漿分画製剤の製造工程におけるTSEクリアランス試験の方法について「Points to consider」の基礎を作ること。 |
| 490 | 塩酸シプロフロキサシン | 2002年のイングランド及びウェールズにおけるNeisseria gonorrhoeaeのciprofloxacin耐性: 26施設における調査について。 |
| 491 | ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン | 英国保健省によるvCJDに関連する輸血事例についての英国議会での声明。 |
| 492 | ヘパリンナトリウム | ワシントン州で牛海綿状脳症(BSE)に感染した牛1頭を確認した。 |
| 493 | はしか生ワクチン、おたふくかぜ生ワクチン、インフルエンザHAワクチン、インフルエンザワクチン | 高原病性トリインフルエンザH5N1の流行について。 |
| 494 | 乾燥弱毒生風疹ワクチン、乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン、コレラワクチン、沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド、沈降破傷風トキソイド、沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン、百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン、ジフテリアトキソイド、ジフテリア破傷風混合トキソイド、沈降精製百日咳ワクチン、百日咳ワクチン、乾燥痘そうワクチン、日本脳炎ワクチン、乾燥弱毒生麻しんワクチン | 2003年12月28日米国ワシントン州でBSE感染牛が確認され、英国の研究所にて検体の病理学的検査を行ったところBSE陽性であると確定した。 |
| 495 | 乾燥スルホ化人免疫グロブリン | 霊長類における静注あるいは経口感染後の牛海綿状脳症病原体の組織分布について。 |
| 496 | ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン | ウシ海綿状脳症(BSE)原因物質の霊長類への伝播の可能性を静脈経路によって評価し経口経路での感染と比較してその組織分布を調べた。 |

| | | |
|-----|--------|---|
| 497 | ナサルプラゼ | CPMP及びCVMPによるヒト用医薬品及び動物用医薬品を介するTSEリスクを最小限にするためのガイドラインの第2改訂に関して。 |
|-----|--------|---|